

第三十二師團司令部略歴

至自	至自	至自	至自	至自	至自	〃	〃	〃	〃	〃	昭
一五	一五	一四	一四	一四	一四	〃	〃	〃	〃	〃	一四
四三	〃三	〇九	〃八	七六	〃六	五	五	四	〃	三	二
四六	六七	二五	〇二	五五	七一	〇	五	一	一五	一	七
石支三作戰	陳光討伐作戰	高樹勲作戰	梁山事件 独立湖西方作戰	魯西作戰	魯南作戰	北支上陸	東京港出帆	北支巡邏	編成完結	第三十二師團司令部編成第一日	軍令陸甲第六号下令

至自 一七 七 二	至自 一七 九四 二	至自 一七 三 七一	至自 一七 二 四	至自 一六 二 三	至自 一六 〇 一七	至自 一六 三 三	至自 一六 一 六	至自 一五 十九 四	至自 一五 六 四	至自昭 一五 五 三
費沂滕山地作戰（前期）	浙贛作戰	第二次魯西作戰	魯中作戰	第二次魯南剿共作戰	沂南作戰	第二次陳尤作戰	第一次湖西作戰	魯南剿共作戰	冀南作戰	第二次高樹勳討伐作戰

昭	至自	至自	至自	至自	至自	昭	至自	至自	至自	至自	昭	
元	"六	"六	"六	"七	"七	元	"六	"六	"七	"七	元	
四	"二	〇九	八七	"三	"三	四	"二	〇九	"三	"三	四	
二	〇八	〇〇	五九	六六	六六	二	〇八	〇〇	五九	六六	二	
作戰主任參謀先遣	南部比島に転用	"	"	秋魯中作戦	第十二軍十八秋魯西作戦	交流遮断作戦	魯豫辺境作戦	費沂滕山地作戦(后期)				
「ハルマヘラ」転用												
船団「マニラ」到着												
「マニラ」出港												
天津山丸雷撃												
司令部開設												
輝第二号作戦参加												

昭 二九 九五	敵上陸す
昭 二九 一九	斬込隊逆上陸
昭 二九 一〇	二百十士の突込挫折
昭 二九 二六	二百十一し「モロタイ」逆上陸
昭 二九 三六	有本大隊逆上陸
昭 二九 三七	第五十六次「モロタイ」突込
昭 二九 三〇	第七次突込
昭 二九 三三	「モロタイ」支隊の自活促進
昭 二九 三六	第八次突込
昭 二九 三九	第九次突込
昭 二九 四一	牌二号作戦終了
昭 二九 四二	牌三号作戦
昭 二九 四八	第十次「モロタイ」突込
昭 二九 五二	第十一次「モロタイ」突込
昭 二九 五五	「ラルナテ」作戦

ハレマハ

至自 昭 二 六 三	至自 昭 二 六 三	至自 昭 二 六 三	昭 二 六 三	至自 昭 二 六 三	昭 二 六 三
八〇 一八	〇二 八一	〇三 一七	〇三 一七	〇三 一七	〇三 一七
〇七	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一
終戦	集結	復員	歴代部隊長	陸軍中将	石井 喜徳
	カウ	司令部は二梯団に分れ	木村 兵衛	井出 鉄蔵	24日
	湾沿岸に全兵力を集結すべく濠洲より命ぜらる	第一次は六月三日「ジョンレットレ			

喜徳

歩兵第二百十一連隊 部隊略歴

年月日	概	要
昭 一 四 三 一	連隊編成下令	
" " " 五 五	編成完結	
" " " 五 五	東京芝浦港出帆	
" " " 一 一	北支那青島港上陸	
" " " 一 七	北支那山東省沂州附近警備	
至自 " " 六 九 〇	魯南作戰	
至自 " " 六 七 六	山東省魯南周村地区作戰	
至自 " " 九 〇 九	魯東東北地区作戰	
至自 " " 五 四 六	新魯南作戰	
至自 " " 九 〇 三 六	魯南剿共作戰	

ハルマハラ

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自昭
〃〃	〃〃	〃〃	〃〃	〃七	〃〃	〃〃	〃〃	〃〃	〃六
〃二	八六	九五	〃三	〃二	三〇	〃〇	〃〃	〃三	二一
四六	三九	三九	七一	七一	三九	九七	三二	三四	六五
魯豫切境作戰	山東省黃沂滕山地作戰	今津集成大隊 沂嶺作戰參加	第二次魯西作戰	杉本集成大隊魯中作戰參加	第二次魯南剿共作戰	沂南作戰	沂州より山東省滕県に移駐爾后同地附近の警備	第二次陳光討伐作戰	第一次博南剿共作戰

至自	〃	〃	昭	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自昭
〃	〃	〃	〃	〃元	〃	〃	〃	〃	〃	〃八
七	五	四	三	〃二	三二	三二	〇九	〃五	〃	〃四
三三	二	八	七	元三	九六	一六	三元	元四	〃	二七
<p>甲憲武匪第九十二軍作戦</p> <p>右 同</p> <p>武号作戦</p> <p>勇号作戦</p> <p>土屋集成大隊勇二号作戦参加</p> <p>南方転進の為 山東省滕県出發中支上海に集結</p> <p>十八、十二、二五南方方面転進を命ぜられたる新井大隊の補填大隊として第十師団より前田築成大隊隷下に入る</p> <p>南方転進の為中支上海港出帆</p> <p>濠北「ハルマハラ」島「ワシレ」附近に上陸</p> <p>「モニタイ」島に移駐 同島警備</p>										



昭	自	昭	自	昭	自	昭	自
一九	〇	一九	〇	一九	〇	一九	〇
五	三	二	三	七	七	二	三
二	二	六	一	五	五	二	二
田村大隊を「タラウト」地区隊長の指揮に入らしむ	「カタナ」に移駐「トベロ」附近の警備	西代集成大隊を「ダル」地区隊長の指揮に入らしむ	牌第二号作戦	西代集成大隊復帰す	牌第三号作戦	牌第三号作戦	勢第二、三号作戦
戦死	将校	三四	准士官 下士官	一〇四	兵	四二六	小計五六四
戦病死	〃	一	〃	一三	〃	五三	六七
生死不明	〃	二	〃	三二	〃	一七八	二二二
合計	八四三名						



第三十二師団歩兵第二百十二連隊部隊略歴

年月日	概要
昭和二年七月	軍令陸甲第六号に依り第三十二師団編成下令
〃〃〃三月一日	編成第一日
〃〃〃三月二日	編成完結
〃〃〃三月三日	軍旗拝受
〃〃〃三月七日	北支派遣のため東京港出港
〃〃〃三月十三日	青島港上陸
〃〃〃三月十三日	乗馬小隊編成
〃〃〃三月十六日	軍令陸甲第三十六号に依り第三十二師団編成下令
〃〃〃三月二十五日	編成改正第一日
〃〃〃三月二十六日	編成完結
自一九四五年六月三日至	第二大隊昭和十九年四月浙州より転進歩兵第二百十二連隊に編入 支那事変及大東亞戦争支那方面勤務

昭	一	九	四	七	南方転進のため中支上海滬出帆
〃	〃	〃	〃	〃	第二軍司令官の部下を脱し 第十四軍司令官の部下に入る
〃	〃	〃	〃	三〇	フィリッピンマニラ港寄港
〃	〃	〃	〃	三〇	マニラ港出帆
〃	〃	〃	〃	三〇	第十四軍司令官の部下を脱し 第二方面軍司令官の部下に入る
〃	〃	〃	〃	三〇	涿北ハルマヘヲ島ワシン湾岸に上陸爾后同島守備
〃	〃	〃	〃	三〇	第三十五師団及隊三百九十五名患者輸送第八十八小隊三名
〃	〃	〃	〃	三〇	第二特設水路輸送隊十二名歩兵第二百十二連隊に転入
〃	〃	〃	〃	三〇	第四大隊編成
〃	〃	〃	〃	三〇	独立野戦照空隊百六十一名歩兵第二百十二連隊に編入
〃	〃	〃	〃	三〇	終戦

工兵第三十二連隊部隊略歴

至自					昭	年 月 日	概 要
八五 二二	七〇 二五	〇〇 四二	五四 〇元	五四 六元	二 四 三		
<p>連隊は赤羽にて編成完結                  北支山東省那県に進駐                  山東省済寧に駐屯し爾后南方転進迄同地周地区の討伐警備に任ずる                  と共に各地の作戦討伐に参加せり                  部隊行動の概要左の如し</p>							
<p>春季普南作戦                  陳光討伐                  高樹勲討伐                  冀南作戦                  東平湖周辺地区滅共作戦</p>							

至自	至自	至自	至自	至自	昭	至自	至自	至自	至自	至自
九五	三三	四一	三〇	二〇	九	〇八	六五	〇四	一六	一五
三一	八一	三六	六二	三〇	一六	三二	五一	八六	五四	三三
浙蘇作戰	第二次魯西作戰	魯中作戰	第二次魯南剿共作戰	河南作戰	山東省邢縣王家樓附近の戦斗	普察北界辺区肅正討伐	中原会戦	李家樓及攬壯附近の戦斗	大辛壯附近の戦斗	鄆城県候埭陳家樓附近戦斗

昭	至自	〃	〃	昭	至自	至自	至自	至自	至自
〃	〃	〃	〃	一九	〃	〃	〃	〃	〃
〃	四	〃	〃	二	三二	〃九	八七	〃五	〃三
二七	二九	三五	四〇		九〇	四八	五〇	八二	三一
手塚大尉以下戦死	上海出帆	安慶―蕪湖間道路設定作業	南京着	濟寧出巻	南方転進	兩后原駐地周知の警備	〃	〃	秋畠中作戦
									第十二軍十八秋魯西作戦
									文化交流断作戦
									昭和十八年度魯中作戦
									嘉祥県に龍山附近の戦斗

昭	至自	至自	至自	至自	至自	昭	至自
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	昭
〃	九〃	〃	八七	七五	六五	〃	〃
〃	二四	二一	三三	二六	〇一	六	〃
<p>旧師団戦士司令所道路構築</p> <p>ワシレ作戦用文通路設定</p> <p>ハテタバコ砲台設定作業</p> <p>ボバレ砲台設定作業</p> <p>ボバネゴードゲンガ道路構築</p> <p>フェヤキール棧橋構築作業</p> <p>ボバネゴードゲンガ道路構築</p> <p>輝第二号作戦</p> <p>ハルマヘラ島上陸 同且部兵力展開配属</p>						<p>マニラ着、発、</p> <p>天津山丸沈没</p>	



昭 八 四	至 八 四	自 三 二	至 二 九	自 一 八	師団司令部用抗道式掩蔽部 軍通信師団通信隊抗道式掩蔽部構築 勢第三号作戦 現地自活作戦 終戦以降
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--

輜重兵第三十二連隊部隊略歴

楓第四二六〇部隊

部隊長 大佐 中川 千代吉

年月日	概要
昭 西 三 三	<p>位置</p> <p>終戦時 ハルマヘラ島</p> <p>終戦後 " "</p> <p>東京にて編成</p> <p>兵出身地</p> <p>東京</p> <p>神奈川</p> <p>埼玉</p> <p>千葉</p> <p>山梨</p>

昭 西 五	昭 六 二	昭 五 二	昭 六 八	昭 七 六	昭 六 六	昭 六 二	昭 五 二	昭 五 四	昭 五 八	昭 五 八		
中華民國 山東省濰州に駐留	編成改正	上海移動	乗船 ハルマヘラ島上陸	終戦	復員完結	参加せる主要なる作戦 (警備、戦斗、行軍、輸送の概要)	濰州附近の警備	山西省の作戦 (作戦名等不明)	浙贛作戦参加 (六月一日方曲斗橋の戦斗)	山西省の作戦に自ら参加 (作戦名不明)	戦作輸送	ハルマヘラ島守備

昭 二 六 五	七 六 五	<p>終戦より帰還迄の行動の概要</p> <p>ハルマヘラ島にて終戦になり 同島にて地域を限定し其の地域にて農耕に従事す</p> <p>此間 兵隊資材の集積、文付等の事あり</p> <p>乗船命令あり受諾の上船 ハルマヘラ島出発</p> <p>和歌山県田辺港到着</p> <p>上陸</p> <p>復員 夫々帰還す</p> <p>特異事項</p> <p>輸送補給を担当する外殆んど全期に亘り戦斗部隊として行動せり</p> <p>歴代部隊長</p> <p>第一代 大佐 八木 節右郎</p> <p>第二代 “ 中川 千代吉</p> <p>上陸地和歌山県田辺に於て全書類を渡しあり然も書類は編成以来完全に保存しありたる為少くなる事なき筈より復員書類を再調査相成り度し 尚部隊生死に</p>
------------------	-------------	--

ハルマヘラ

第三十二師団兵器勤務隊部隊略歴

棍第四二六一部隊

部隊長名 陸軍大尉 西村 安一

位置

終戦時 濠北ハルマヘラ島ダル地区

終戦後 " "

年月日	概要
昭 一 四 五 五	東京港出帆
" " 六 二	北支、兗州着 本然の任地の他同地の警備
" " 七 五	作戦参加時以外は絶えず師団警備地区内を巡回し各部隊の兵器を修理す
" " 一 五 二 六	南方転進の為上海へ集結
" " 五 一 〇	ハルマヘラ島ワシレ上陸
" " 八 一 五	終戦

内  
ハルマヘラ

昭	至自	至自	至自	至自	至自	至自	昭
一	五	九	三	三	〇	一	一
四	二	五	二	七	九	五	四
五	二	九	二	七	〇	六	五
六	七	三	四	二	三	九	五
	上海出帆	南方転進の為上海へ集結	浙赣作戦	魯中作戦	第二次	第一次魯南剿共作戦	編成 東京にて
	「セレベス」「バンカ」島沖で敵攻撃を受く						兵出身地
							第一師団管下（東京、神奈川、千葉、埼玉、山梨）
							参加せる主要なる作戦の概要
							冀南作戦

”	”	”	”	”	”	”	昭 五 五 〇
田 沼 港 上 陸	ハ ル マ ヘ ラ 島	出 帆	依 然 「 ハ ル マ ヘ ラ 」 島 「 ダ ル 」 地 区 に あ り	終 戦 よ り 帰 還 迄 の 行 動 の 概 要	と 共 に 師 団 の 方 針 に 基 き 永 久 自 活 	「 ハ ル マ ヘ ラ 」 島 「 ダ ル 」 地 区 に 移 動 本 来 の 任 務 を 続 行 す る	一 部 の 乗 船 せ る 天 津 山 丸 沈 没  主 力 ハ ル マ ヘ ラ 島 到 着 ( ワ シ レ 地 区 )

第三十二師団衛生隊部隊略歴

部隊長代理 久保 進

年 月 日	概 要
昭 二 五 六	<p>北支より転進主力は「タラウド」諸島に一部（俘虜以下五〇名） 「ハルマヘラ」島にありて野砲兵第三十二連隊に配属、夫々島嶼守 備に任ず</p> <p>転進途次東経百二十四度七分北緯二度四十二分 メナト 西北方約 八十哩附近作戦輸送中敵潜水艦の魚雷攻撃を受け 乗船天津丸沈没 兵七、海没、戦死、余餘 二五四名は</p> <p>護衛艦艇により救助せらる</p> <p>歩兵第二百十一連隊第二大隊 同連隊砲連射砲各一ヶ小隊 同連隊通信隊の一ヶ分隊</p> <p>歩兵第二百十連隊第十二中隊 野砲兵第三十二連隊第一中隊 工兵第三十二連隊第一中隊第三小隊</p>



昭 二 五 七	自 一 九 八	自 一 九 九	自 一 九 九	自 一 九 九	自 一 九 九
三 〇 一	三 五 一	三 五 一	三 五 一	三 五 一	三 五 一
三 〇 一	三 五 一	三 五 一	三 五 一	三 五 一	三 五 一

第三十二師団通信隊より一ヶ分隊を併せ指揮「タラウド」地区隊を編成「タラウド」及「ザンギヘ」諸島に進駐島嶼守備に任ず

独立守備歩兵第二十二大隊更に指揮下に入り歩兵第二十連隊第十二中隊の指揮下を脱す

第二方面軍直轄となる

独立混成第五十七旅団の指揮下に入る

輝集団第二号作戦参加

「マニラ」―「ハルマヘラ」島「ワシレ」作戦輸送

「ハルマヘラ」島「ワシレ」―「タラウド」諸島向右

「クラウド」諸島「カラケラン」島「ベオ」港附近守備

敵航空海上勢力の跳梁下 補給途絶せる離島守備に任ず

内 ハルマハラ

自昭 六三 一四	自昭 六三 一四
勢集団第三号作戦参加 メナド地区に転進を命ぜられ転進準備のためタラウド諸島サンバグ	高温多湿、泥濘の輿地障地に起居し且連日埴地構築作業及完全現地 自活等の為罹病者多出、又敵機の銃爆撃により 戦死兵 三、 戦傷死 兵 二、（何れも指揮下部隊より） 戦病死 下士官 一、 兵 四、 指揮下部隊 戦病死 兵 三九 変死 一、 戦死 下士官 一、 兵 一、 戦傷死 兵 二、 戦病死 兵 三、 変死 兵 一、（何れも指揮下部隊より）

自昭  
三二

島リルンに前進 舟艇の来着を待機中 停戦に至る

戦病死 将校一、准士官一、下士官一、兵三

指揮下部隊 兵六

停戦后戦争犯罪人の容疑及参考人として衛生隊長 木場大佐以下九名指揮下部隊歩兵第二百十一連隊第二大隊長 田村少佐以下二三名「モロタイ」島に召致せらる

「セレベス」島ミナハサ州「ピートン」地区に集結を命ぜられ昭和二十年十一月十三日より二十三日の間三梯団に分れ東北部「セレベス」に移駐 昭和二十年十一月 木場部隊長不在間独立混成第五十七旅団より陸軍少佐 久保進 地区隊長代理として来る

独混第五十七旅団日命第二〇号により同司令部付 久保少佐第三十二師団衛生隊附に補せられる

歴代部隊長 1、陸軍中佐 網倉 孝 え

2、大佐 木場 茂

代理3、少佐 久保 進

第三十二師団第一野戦病院部隊略歴

病院長 小菅俊平

年月日	概要
昭 二 二 七	軍令陸甲第六号に依り第三十二師団第一野戦病院 編成下令
“ “ “ “ “ “	編制第一日
“ “ “ “ “ “	編成完結
“ “ “ “ “ “	北支那派遣の為芝罘港出帆
“ “ “ “ “ “	青島港上陸
“ “ “ “ “ “	中華民國山東省臨清県臨清到着
自 二 七 四	1. 業務左の如し
自 昭 二 七 四	臨清県臨清
自 二 七 四	野戦病院開設 聊城県東昌

至自 〃〃 七〃 八 <sup>二</sup> <sub>九</sub>	至自 〃〃 〃〃 二 <sup>二</sup> <sub>二</sub>	至自 〃 <sup>一</sup> <sub>五</sub> 五 <sup>四</sup> 一 <sup>二</sup> <sub>六</sub> 九	至自 〃 <sup>一</sup> <sub>六</sub> 四 九 <sup>五</sup> 一 <sup>一</sup> <sub>〇</sub> 七	至自 〃 <sup>一</sup> <sub>五</sub> 四 七 <sup>五</sup> 二 <sup>一</sup> <sub>〇</sub> 七	至自 〃 <sup>一</sup> <sub>六</sub> 五 九 <sup>三</sup> 八 <sup>五</sup>	至自 〃 <sup>一</sup> <sub>七</sub> 五 五 <sup>三</sup> 三 <sup>五</sup>	至自 昭 <sup>一</sup> <sub>五</sub> 四 三 <sup>五</sup> 一 <sup>一</sup> <sub>五</sub> 七
冀南作戦	魯中作戦	陳光作戦	2、患者救護班として出動左の如し		開 患者休憩所 設	開 患者療養所 設	
〃	〃	軍医以下	萬城	德泉	冠泉	壽張	陽穀
三五名	一二名	一四名	萬城	德泉	冠泉	壽張	陽穀

昭 天 三 言	至自 〇七 〇二 元六	至自 〇〇 三二 三二	至自 〇〇 八七 三七	至自 〇〇 〇三 五一	至自 〇天 二一 一七	至自 〇〇 三二 二六	至自 〇〇 百九 九三	至自 〇五 七六 三三
	魯中作戦	右出勤に依り兵二名戦死 兵一名戦傷せり	齊子修	光二次陳光討伐	光一次湖西作戦	光三次五七軍討伐	魯南剿共	衛河作戦
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	一九名	一四名	一四名	二七名	二八名	二八名	二八名	單医以下 八名

ハレマハラ

昭 七 百 七	至自 〃〃 〃〃 三	至自 〃〃 〃九 三	至自 〃〃 八七 三	自 七 五 六
〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃
野戦病院開設	右作戦間 准士官 一名 戦病死す	患者療養所開設 同 長閑市	野戦病院開設 同 浙江省 金華 諸暨	浙贛作戦に参加
軍令陸甲才三十六号に依り才三十二師団編成改正下令	作戦終了右山東省臨沂県沂州に進駐 臨沂県沂州にて六・六・一五迄			
編成改正才一日				
編成改正に伴い済寧県済寧に移駐				
編成改正完結				

至自 〃〃 二二 一六	至自 〃〃 〇九 二二八	至自 〃〃 八七 四七	至自 〃〃 一八 二一 二五	至自 〃〃 九七 一三	至自 〃〃 一七 二二 三〇六	至自 〃〃 一九 二六 一五七	至自 〃〃 一八 三六 二七	至自 〃〃 一九 二六 一五五	至自 昭一八 一九 二六 一七
✓第十八軍魯中魯南作戰	第十二軍十八秋魯西作戰	十八夏大行作戰	臨邛匪地区討伐	費沂勝山地作戰	魯豫辺境作戰	患者救護班として出動左の如し	患者療養所開設	野戦病院開設	濟寧泉濟寧
〃	〃	〃	〃	〃	軍医以下	荷澤泉荷澤	鄆城泉鄆城	臨沂泉沂州	
一〇名	一八名	二四名	三一一名	二二名	二〇名				



昭 五 二 兵	、 、 、 、 六	、 、 、 、 六	昭 五 四 三 一	、 、 、 、 一	、 、 、 、 一	至 自 三 一 二
<p>次期作戦準備のため清寧出発、中支那吳淞附近に集結す  南方転進のため中支那、上海港出帆才十二軍司令官の隷下を脱し  才十四軍司令官の隷下に入る  作戦輸送中北緯八度六分東経百十九度四十一分比島西方五十一哩附  近に於て敵潜水艦の魚雷攻撃により  乗船才一吉田丸沈没により  将校 三名、准士官 二名、兵 二十一名  下士官  戦死す</p> <p>比島マニラ港寄港  同港出帆  第十四軍司令官の隷下を脱し才二方面軍司令官の隷下に入る  ハルマヘラ島ワシン港岸に上陸  輝才二号作戦  兵一名 戦病死す</p>						

至自 〇〇 八六 二二	至自 〇〇 六五 〇〇	至自 〇〇 六三 〇二	至自 〇〇 六三 〇二	至自 〇〇 六三 〇二	至自 〇九 八五 三三	至自 〇九 三八 一七	至自 〇〇 三九 一五	至自 昭九 八六 七二
勢才三号作戦	ガル 患者療養所開設	ガレラ 〃 〃	ロ、バタ 野戦病院開設	兵一名 戦病死	輝才三号作戦	開患者療養所 設 ヘアホール	開野戦病院 設 ロンバタ ガレラ	トベロ

	至自	至自	至自
	“	“	昭
	ハ六	ハ六	ハ六
	一四二	一四二	一四二
			ロ、バタ
			野戦病院開設
			ガレラ
			患者療養所開設
			ダ
			歴代部隊長名
一、	軍医少佐	甲田	薫
二、	小管	俊平	

第三十二師団病馬廠部隊略歴

年月日	概要
自昭五 四二	集結訓練のため部隊は北支兗州より中支上海附近に移動し、同地に於て概ね二ヶ月間の南方転進のため訓練を実施す
自 六五	訓練を終了し中支より南方に転進し部隊主力は「ハルマヘラ」島「ロバタン」に、一部は同島「マケーム」に上陸し病馬救護所を開設すると共に島嶼の守備に任ず
昭 一七	依然現任務を続行すると共に部隊は馬糧の欠乏並に「ハルマヘラ」島の現況に鑑み師団命令に基き師団保管馬の一部（日本馬）を比島並に「メナド」に還送せり、 其の還送要員として将校以下四十一名 七月十五日「ハルマヘラ」島を出発せり
昭 一七	熾烈なる敵空爆下は於てロンバダ地区に於ける主力の開設は困難となり該地区を撤収しコレカ止河峪に移動開設し依然現地任務を続行す

2  
外  
ハルマヘラ

ハ	二	二	九	昭 五 八
<p> 師団命令に基き病馬廠長は残置師団保管馬を「スバイム」地区に集結せしめ其の飼育管理を担任せしめらる、之が為直ちに部隊主力を「スバイム」地区に移動せしめ該地区の一部をと合せ開設すると共に任務に基き師団保管馬の飼育管理に任ず  敵機動部隊「モロタイ」島に上陸するや敵機の行動活発となり「スバイム」地区に於ける任務を達成すること不能直ちに海岸線より概ね八軒の奥地復廊陣地に後退依然任務を統行せり  活発なる敵機に據る集積物資の増大なる損失、將來作戦任務の遂行等を考慮し「ハルマヘラ」島全般の状況に鑑み現地馬糧の取得の為現地自治班（長以下概ね六〇名）を編成し海岸線概ね三軒附近に於て現地自活作業を開始す  部隊は師団司令部の食肉の取得並に保管馬の馬糧の確保等の為一段と強力なる濃耕隊及狩猟班を編成し、任務の遂行に遺憾なきを期せり  終戦となりたる為部隊は海岸地帯に集結し現地自治に全力を傾注 </p>				

昭  
三  
五  
三〇

せり  
内地帰還の為「ハテタバコ」に集結を命ぜられ  
「ハルマヘラ」島や「内地帰還部隊」として該島を出発  
帰還せり

歴代部隊長名

- |   |        |       |
|---|--------|-------|
| 1 | 陸軍獣医少佐 | 清水    |
| 2 | 大尉     | 片桐 祐  |
| 3 | 中尉     | 岩田 三郎 |
| 4 | 中尉     | 小林 孝  |
| 5 | 大尉     | 野間 三三 |
| 6 | 大尉     | 阿部 国入 |

独立混成百二十八旅団司令部部隊略歴

年月日	概 要
昭 六 二 九	<p>軍令陸甲才九十二号により才一野戦根據地隊司令部編成下令 編成を完結す</p> <p>編成地 東京、野戦重砲兵才八連隊</p> <p>現地 ハルマヘラ島（人員到着地）</p> <p>門司港を出発す</p>
〃 〃 二 二	<p>任地「ハルマヘラ」島に上陸、爾後同島附近の建設作業並に警備 に任ず</p>
〃 〃 五 元	<p>軍令陸甲才八十九号により才一野戦根據地隊司令部現地に於て復 帰し同時に独立混成才百二十八旅団の編成下令</p>
〃 〃 六 三	<p>編成を完結す</p>

独立歩兵第七百六十八大隊部隊略歴

年月日	昭 八 五 天	概 要
	<p>特脂才〇号(不詳)に依り才五十六兵站警備隊の編成を命ぜられ            中部才六十四部隊に於て編成に着手            中部才六十四部隊に於て編成完結            門司港出帆 ハルマヘラ島に向ふ            パライ寄港            ハルマヘラ島スバイム上陸 同地附近の警備            将校以下四〇名セレベス(部隊不詳)に転属            ハルマヘラ島ボバネゴードデング附近の警備</p>	
	<p>自 五 八 三 二 三 八</p>	<p>戦病死 将 枝 一            下士官 一            兵 九</p>



昭 三〇 三 三〇	昭 三〇 一 二 五 (推定)	自 八 一 五	〇 〇 八 五	昭 三〇 三 三〇
<p>         才五十六兵站警備隊解隊          独立混成隊一八旅団独立歩兵隊七六八大隊(杖榎隊一六三三二          部隊)編成完結          作戰任務を解除さる          間 戦病死 将 枝 一          下士官 一          兵 二          ハルマヘラ島スバイムに集結 終戦処理業務並に現地自活          復員のためハルマヘラ島出帆          復員完結(将枝三七、准士官六、下士官二三六、兵四八三)       </p>				
<p>         歴代部隊長名          陸軍少佐 笠原 操       </p>				

独立歩兵第七百六十九大隊部隊略歴

年月日	概要
昭 六 五 三〇	時臨編ヲ二十五号に基き福井県丹生郡立狩村中部ヲ六十回部隊に於てオ五十六兵站地区隊編成完結 門司港出発
〃 〃 〃 九 七	ハルマヘラ島スバイム上陸
〃 〃 〃 六 三	同島に於ける基地設定、作戦準備、現地自活等の諸作業及防衛業務に従事
昭 六 五 元	軍令陸甲オ八十九号に據り現地復帰並に独立混成オ百二十八旅団編成下令
〃 〃 〃 六 三〇	現地復帰並に編成完結
〃 〃 〃 六 三〇	独立歩兵オ七百六十九大隊に転属す
自 昭 三 六 四 五 三〇	損耗人員一覧表別紙オニの如し



独立混成第百二十八旅団  
独立歩兵第七七〇大隊

部隊略歴

部隊長名 陸軍少佐 藤 測 広 夫

位置

ハルマヘラ島ワシレ

年月日	昭 五 元 六 三
概 要	<p>編成完結          軍令陸甲オ八九号に依り独立混成オ一ニ八旅団編成下令          編成地 ハルマヘラ島ワシレ          兵出身地 主力 宇都宮          十四師団管内          ハルマヘラ島ワシレに在りて同島守備</p>

	自 昭 三 三 五 八 三 五
自 三 八 三	<p>           自活作業並にモロタイ島飛行場作業に従事            復員帰還のためハルマヘラ島出帆            田辺に上陸            同日復員         </p> <p>           参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送）の概要            勢才三号作戦に参加         </p> <p>           死傷損耗            戦死 一名と記憶す            備給なし         </p>

1

5  
月

昭  
五  
六  
一  
言

終戦より帰還迄の行動の概要

ハルマヘラ島に在りて自活の為主として農耕作業に従事し  
一部兵力モロタイ島並にトベロに派遣し占領軍の勤務に従事す

部隊の経歴中特異と認めらるる事項等

オニ軍命令に依り別記部隊(記憶のみの閑居部隊)は解隊  
特別戦斗オニ連隊(オニ大隊)編成  
同日より「ハルマヘラ」島「ワシレ」附近に警備及戦斗参加

0654

独立歩兵第七七一大隊部隊略歴

快捷才 部隊

部隊長名 少佐 三宅 一 二

位置 蘭印

ハルマヘラ島（ロロバタ）

年月日	概 要
昭 五 元 六 日	<p>軍令陸甲才八十九号（陸亜機密才二三 号）に依り編成復帰下令 編成復帰完結す</p> <p>編成地</p> <p>現 地 （蘭印ハルマヘラ島）</p> <p>兵出身地 関東六県</p> <p>特に 東京、千葉、埼玉、神奈川多し （極く少数 九州、その他あり）</p>

昭 三 六 三	八 一 四	三 五 三	三 三
<p>完結後 部隊は現地（蘭印ハルマヘラ島）に在りて同島警備に 終戦</p>	<p>爾後同地に在りて自活作業及終戦業務に従事し 和歌山県 田辺港入港 上陸 復員完結す</p>	<p>参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送）の概要 ハルマヘラ島にありて同地の警備 同島出帆</p>	<p>終戦より帰還迄の行動の概要 現地（蘭領ハルマヘラ島）によりて現地自活作業及終戦に伴う 諸作業に従事す 同島より リバティー型輸送船にあり直路航行 和歌山県田辺港に上陸す</p>



部隊の経歴中特異と認めらるゝ事項等

部隊は之開拓隊を主体として編成せられ

殆んど未教育補充兵及国民兵のみを以て編成せられ技術貧弱なり  
出身は関東六県大部分にして一部九州及他府県のとの混同す

独立歩兵第七百七十二大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和五年一月三日	<p>千葉泉習志野廠舎に於てオ一開拓勤務隊編成          宇品港出帆 南方ハルマヘラ島に向ふ          マニラ港寄港          ハルマヘラ島ガレラに到着 オニ方面單野戰貨物廠オ一野戰根據地隊          司令部隷下に同地農耕開拓勤務並ガレラ飛行場整備勤務及揚陸勤務          特別戦斗オ五大隊に編成改正す（以上オ一野戰根據地隊司令部隷下）          同地出帆 同島ジヤロロ地区に転進          同島ジマイロロ地区ジマイロロに到着          爾來同地区の整備勤務ジマイロロ飛行場整備勤務          （大隊長はジマイロロ地区隊長として飛行場大隊を併せ指揮す）          間、將校以下三十八名を同島イブ地区に前進同地討伐並警備          此間下士官以下八名戦傷死</p>
自 〇 三二	

6 内

年月日	概要
昭 三 六 三	<p>昭和二十年五月二十九日軍令陸甲才八九号に依り編成改正 独立歩兵才七七二大隊（本部三中隊銃砲隊作業小隊）と改稱 （將校以下 六五四名）</p>
自 六 六 三	<p>シヤイロ口地区担任警備内に在るテルナテ島に敵上陸の為同地 警備海軍部隊（約一五〇名）を増援の為將校以下一一〇名派遣 戦斗す</p>
昭 八 七	<p>戦 死 一 頭 傷 三</p>
三 五 四	<p>作戦任務を解除さる 函米終戦処理業務及自活 同島カウ地区パタンに転進（連合軍の指令により自活復員時期指 定地）自活努力す 復員津箱の為の同島ペテ湾に転進</p>

<p>昭 三 五 九</p> <p>〃 〃 〃 二</p>	<p>年 月 日</p>		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="609 712 1165 1727"> <p>ハルマヘラ島ベテワン出帆（自隊員將校以下六二八名） 名古屋港到着 名古屋に於て復員完結</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>1. 歩陸軍大尉（予備役）（オ一開拓勤務隊中） 2. 少佐（少候九期）（特別戦斗オ五大隊以来其の後 の完結迄）</p> <p>金沢久市</p> </td> <td data-bbox="1165 712 1212 1727"> <p>概 要</p> </td> </tr> </table>		<p>ハルマヘラ島ベテワン出帆（自隊員將校以下六二八名） 名古屋港到着 名古屋に於て復員完結</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>1. 歩陸軍大尉（予備役）（オ一開拓勤務隊中） 2. 少佐（少候九期）（特別戦斗オ五大隊以来其の後 の完結迄）</p> <p>金沢久市</p>	<p>概 要</p>
<p>ハルマヘラ島ベテワン出帆（自隊員將校以下六二八名） 名古屋港到着 名古屋に於て復員完結</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>1. 歩陸軍大尉（予備役）（オ一開拓勤務隊中） 2. 少佐（少候九期）（特別戦斗オ五大隊以来其の後 の完結迄）</p> <p>金沢久市</p>	<p>概 要</p>		

独立歩兵第七七三大隊部隊略歴

年月日	昭 九 七 七	概 要
	<p>昭 九 七 七</p> <p>〃 〃 八 五</p> <p>〃 〃 三 三</p>	<p>当大隊はハルマヘラ島在部隊より一部の人員を集め編成せるものにして、前進部隊の残兵が多く戦況悪い様になつて其の附近の小部隊を大隊指揮にしたとのです、</p> <p>主なる部隊は野戦建築隊が多く又兵補部隊に關係する日本將兵なり戦斗には直接当らず只任地の防備に少くしたのみ</p> <p>編成地 南方ハルマヘラ島丁地区</p> <p>参加せる主要なる作戦 特別戦斗ヲ六大隊本部に派遣 ヲ一野戦根據地司令部に転居</p> <p>大空襲 八月十四日初空襲より翌年二月末日迄毎日</p>

年 月 日	<p>至自 昭 昭 三 三 七 七 六 六 五 五</p>
概 要	<p>輝才ニ野戦参加 独立歩兵ヲ七三三大隊編成 勢才三号作戦参加</p> <p>終戦より帰還迄の行動 終戦前より食糧なく手持品空襲に約半数をたゞかみ、内池の補給 七月頃より絶え山野開こんして甘藷タバコカ助業等全員帰還を主 張し、尚終戦後一層努力して農業をして毎日食べたり休つたりし て榮しむとす</p> <p>各中隊と同じ編成地を渡りなし</p> <p>部隊長 陸軍少佐 富里 栄 吉</p>

独立混成第百二十八旅団工兵隊部隊略歴

年月日	概要
昭和六十九日	<p>軍令陸甲才四五号(推定)により才百四陸軍飛行場設定隊の編成を          豊橋陸軍飛行場設定練習部に於て編成着手(中部才一〇〇部隊)          豊橋陸軍飛行場設定練習部に於て編成完結          (日推定)樽北派遣のため宇呂港出港          ベーシ海峡附近における対潜戦斗に参加船団四隻内二隻轟沈          我等輸送船スイズ丸二八〇名を救助す          マニラ港寄港          セブ島に寄港同港に約二週間待命          ハルマヘラ島ワシレ港に入港</p>
至白五八五二	<p>間 航空其の他の設定並に諸勤務に従事す</p>
至白五八五六	<p>間 「ワシレ」飛行場修作業並に「ハテタバコ」附近の普備に          従事す</p>

年月日	概要
<p>自昭五 〇六 〇天</p>	<p>間才百回野戦飛行場設定隊復帰業務並独立混成才百二十八旅団 工兵隊編成業務に従事 六月二十日編成完結</p>
<p>自昭 〇八 〇三</p>	<p>間 一ハテタバコレ附近の警備</p>
<p>昭 〇 二五 〇三</p>	<p>終戦 タナベ港に於て復員</p>



独立混成第百二十八旅団通信隊部隊略歴

年月日	概要
昭 五 六 三	<p>軍令陸甲才八十九号に據り才百二十八旅団編成下令 独立混成才百二十八旅団通信隊編成完結 縮成地 ハルマヘラ島</p> <p>將校職員表 (附表才一) 縮成人員表 (才二) 転出(入)者 (才三、四)の如し</p> <p>終戦 爾後現地自活並通信業務に従事す</p> <p>戦病死者 一 (附表才五) 戦入者 一 (附表才六)の如し</p> <p>歴代部隊長 独立混成才百二十八旅団通信隊長 陸軍少佐 金森有吉</p>
自 昭 三 四 三	